

【6 認知症の方が望む接し方】

1. 尊厳を大切にする
記憶障害があっても人格を持つ1人の尊い存在として接してほしい。
2. 尊敬の気持ちを忘れない
何ができなくても見下すのではなく、尊い存在として接してほしい。
3. 繰り返しに寛容である
同じことを何度も言う場合でも、初めて言われたかのように親切に対応してほしい。
4. 選択肢を示す工夫
漠然とした質問ではなく、具体的な選択肢を示して意向を聞いてほしい。
5. 誠実である
一時しのぎの嘘をつかないでほしい。
6. バカにしない
「そんなことは小学生でも知っている」などの侮辱的な言葉を避けてほしい。
7. できることは自分で
たとえ時間がかかっても、能力維持のために自分で行わせてほしい。できない場合だけ支援してほしい。
8. 説明をする
介護の際には無言で行うのではなく、事前に説明してから行ってほしい。
9. 推測せず、聞く
些細なことでも推測や思い込みではなく、直接尋ねてほしい。
10. 能力を信じる

できないことが多くても、できることもたくさんある。能力を信じてほしい。

11. ポジティブな助言

できないことを指摘するのではなく、能力を引き出す助言をしてほしい。

12. 対等な立場で接する

「してあげる」ではなく、「一緒にしましょう」「一緒に楽しみましょう」と言ってほしい。

13. その時の意向を尊重

気分や気候で異なる好みを聞いて対応してほしい。

14. 柔軟に接する

一度できなくても、それを固定観念にせず、「次の時がんばりましょうね」と励ましてほしい。

15. 個性を尊重する

その人の個性や好みを理解し、大切にしてほしい。

16. 行動を支援する

目的地では先に案内しつつ、ゆっくり見たいときには後からついてきてほしい。

17. 挑戦を奨励する

危険でない限り、何でも挑戦させてほしい。

18. 待つ姿勢を持つ

できることは自分で行えるように見守ってほしい。

19. 能力を信じる

私たちは「何もできない人」ではない。

20. 柔軟な考えを持つ

一つの方法でできなくても、別の方法を試す柔軟性を持つてほしい。

21. 価値を理解する

「できること」「できないこと」でその人の価値を決めないでほしい。

22. 人格を尊重する

認知症の方にも人格があることを理解し、大切にしてほしい。

23. 否定的な見方をしない

認知症の方を問題のある人として捉えないでほしい。

24. 共感と休息を勧める

気力がない、死にたいと訴える場合は共感し、休息を取るよう勧めてほしい。

25. 尊い存在と認める

認知症の方を劣っているのではなく、尊い存在と認識してほしい。

26. 試練を支える

辛いと言った場合は共感し、試練には脱出の道があることを伝えてほしい。6

27. 楽しい方向へ導く

辛さを訴えたら共感しつつ、楽しい話題を提供してほしい。

まとめ

認知症の方を一人の人格者として尊重し、信じ、励まし、共感しながら接することで、心豊かな関係を築くことができます。

【7 認知症の人が望まない接し方】

1. 嘘をつかない

面倒だからと一時しのぎの嘘をつくことは避けてほしい。

2. できることを奪わない

時間がないという理由で、できることを取り上げないでほしい。

3. 幼児扱いしない

幼児言葉で話しかけないでほしい。

4. プライドを傷つけない

態度や話し方でプライドを傷つけることを避けてほしい。

5. 差別をしない

規則を守らないことを理由に差別しないでほしい。

6. 正面から話しかける

後ろから話しかけられると認識できないため、必ず正面から視野に入った状態で話してほしい。

7. 指示は一度に一つ

一度に複数の指示を出さないでほしい。指示は1つずつ順番に出してほしい。

8. 待たせない

できる限り待たせる時間を短くしてほしい。

9. 意図を無視しない

本人の意図を無視しないでほしい。

10. いつも笑顔で接する

怒りや不機嫌な態度を取らないでほしい。

11. 指示は一貫性を持つ

その場の気分で指示を変えないでほしい。

12. 責任転嫁をしない

都合の悪いことを利用者のせいにしないでほしい。

13. 偏見で接しない

失敗しても「やっぱり」といった色眼鏡で見ないでほしい。

14. 信頼と責任を持つ

信頼できる対応をし、責任感を持って接してほしい。

15. 思いやりを持つ

失敗しても人格を否定することなく、適切な助言をしてほしい。

16. 約束を守る

正直であり、約束を守ってほしい。上から目線で指示を出さないでほしい。

17. 誠意を示す

「どうせできない」という態度を取らないでほしい。

18. 一貫性を持つ

言うことがコロコロ変わらないようにしてほしい。

19. 態度と発言を一致させる

言っていることと反対の態度を取らないでほしい。

20. 時間を守る

時間にルーズにならず、事務的ではなく誠意をもって対応してほしい。

まとめ

嘘をつかず、プライドを傷つけない言葉を選び、不機嫌な態度を避け、誠実で一貫性のある接し方をすることが重要です。

【8 地域社会に望むこと】

認知症の方が地域で安心して生き生きと暮らせる社会を目指すために、以下のポイントをまとめました。

1. あたたかい見守りと信頼

- 認知症の方も地域社会の大切な一員です。

- お願い: 本人のペースを尊重し、見守りながらも、役割を与えてあてにしてほしい。

2. 自立心を尊重する

- 命に関わらない失敗は、学びの一環として許容してほしい。
- できない部分だけ支援し、本人のプライドを守りながら励ましてほしい。

3. 挑戦する機会の提供

- 時間がかかっても、できることは自分の力で取り組ませてほしい。
- 何度失敗しても再挑戦できる環境を整え、成長の機会を奪わないでほしい。

4. 意見と能力の尊重

- 認知症の方の意見や考えを尊重し、活躍の場を用意してほしい。
- 「どうせできない」と決めつけず、可能性を信じて接してほしい。

5. 嘘や偏見を避ける

- 一時的な対応として嘘をつくのではなく、正直で温かい関わりをお願いしたい。
- 色眼鏡で見るのではなく、「できないこと」を補いながら、「できること」を伸ばしてほしい。

6. 自由を守る

- 本人がやりたいことや好きなことに挑戦できる機会を提供してほしい。

- 過度な保護によって自由を制限しないでほしい。

7. 前向きな支援を

- 「ダメ出し」をするのではなく、可能な方法や工夫を助言してほしい。
- **お願い:** 失った機能を嘆くのではなく、残された能力を活かせる方法を一緒に探してほしい。

8. 公平で尊重された存在として

- 認知症を理由に無視されるのではなく、平等で尊重される存在として接してほしい。
- **重要:** 認知症の当事者を抜きにして物事を決定しないでほしい。

9. 人間の価値は有用性ではない

- できることや役立つことだけが人間の価値を決めるわけではない。
- その人の存在自体を尊重し、可能性を信じて接してほしい。

まとめ

認知症になっても、地域社会でその人らしく暮らすためには、偏見や先入観を捨て、共に歩む姿勢が必要です。できる部分を伸ばし、できない部分は支え合う、思いやりのある社会を目指しましょう。

問いかけ:

「あなたの地域では、認知症の方が安心して挑戦できる環境が整っていますか？」